

荒川にまつわる文学作品

～かつての荒川流域の姿をうつす鏡～

暮らしに根付いた川として人々に親しまれ、多くの文学作品の舞台となっています。

荒川上流部改修から
100年
1918-2018



文学

【最上流域】

- ①「秩父の印象」 田部重治
- ②「分水嶺」 高橋玄洋
- ③「塩の道」 横田進
- ④「入川谷山荘日記」 前田夕暮

【上流域】

- ⑤「秩父困民党」 西野辰吉
- ⑥「溪より溪へ」 若山牧水
- 「荒川日記」 森田助左衛門

【中流域】

- ⑦「秩父の山裾」 田山花袋
- 「箱根の坂」 司馬遼太郎
- 「武州鉢形城」 井伏鱒二
- ⑧「おんな三代」 小林初枝
- ⑨「草津道の記」 小林一茶

【下流域】

- ⑩「天の園」 打木村治
- ⑪「キューポラのある街」 早船ちよ

歌

- ①いかだ師の歌
- ②虫送りの歌
- ③秩父音頭

荒川流域の文学＆歌MAP



打木村治「天の園」の文学碑（東松山市）



旭橋の河岸場跡の碑 新河岸川舟唄（川越市）

荒川にまつわる文学作品

名作といわれるさまざまな文学作品の舞台となってきた荒川です。また、荒川周辺の暮らしや風物を伝える歌も数多く残っています。そのことは、荒川がむかしから多くの人たちにとってより身近な生活の場であったという証でもあるのです。

▶ 田部重治の「秩父の印象」（秩父市）

田部重治（1884（明治17）年～1972（昭和47）年）富山県出身の英文学者、随筆家、評論家、翻訳家。1908（明治41）年から死去の1972（昭和47）年まで、中央大学をはじめ9つの大学の教授を歴任しました。学生時代から健康のために山に親しみ、全国各地の山と谿を一生の友とした人です。研究書、翻訳、山の随筆の三方面の業績が多く、随筆『秩父の印象』もその中の一つです。

重治は、秩父を、単なる埼玉県秩父としてとらえるのではなく、もっと広く、荒川、千曲川、笛吹川、多摩川の水源をなす地域としてとらえ、その「秩父の最も誇るべき特点是、山容そのものにあるのではなく、深林と溪谷の美にある」と述べています。そして、その深林と溪谷の美について、各河川別の溪谷の様相を特徴的に描きながら、荒川については「荒川の雄大な姿を窺うことができるのは、十文字峠であって、栃本から約2里にある白妙岩の上に立つと、荒川のほとんど全容が一眸の下に集まって、黒く見ゆる樺の深林、青く見ゆる闊葉樹の深林が、荒川の水源に沿って、帯のようにほとんど10里の間をうねっているのがわかる。」と、その雄大な美しさを紹介しています。

▶ 田山花袋の「秩父の山裾」（寄居町）

坂戸から越生へ、越生から小川へ、小川から寄居へ、寄居から長瀬へと、その題名が示すように、秩父の山裾をめぐる旅の記録です。

花袋は作中で、「私たちはやがて、そこから荒川に見える方の疎な林の中に入って行った。

何とも言へない雄大なシンがそこに開けた。荒川は大きな溪谷をつくって、両山の間を激怒償越して流れ落ちて来ているのである。そしてこの鉢形の城址のある、その当時は立派な天険として役立った数百仞の一面の絶壁に当って、大きく東北に弧線を描いて、そして関東平野へと流れ出でていたのである。長瀬の溪潭が好いとか、三峰に至る間の山水が好いとか言ったとて、何うしてこれとは比較にならうと思はれるほどその眺めはすぐれていた。私は敢て言ふ。東京付近で、これほど雄大な眺めを持った峡谷は他にはないと。」と述べており、特に鉢形城址からの眺めが気に入っていたといわれています。

また、鉢形城址には田山花袋の漢詩碑が建立されています。



▶ 小林初枝の「おんな三代」（深谷市）

中流域の荒川には古くから水車があって、米搗き、麦搗きで繁盛していたようです。小林初枝の『おんな三代』には、「粉挽きに行く荒川村（現、深谷市）の水車は“トンカン車”と呼ばれ、川に浮かべた船の上に据えつけられていた。船は岸に繋ぎ錨を下して安定させてある。水の流れにあうと水車が回り、米を搗く音が「トンカン、トンカン」と響いたことから、子どもたちが“トンカン車”と呼びはじめ、近在の人びとにその名が親しまれるようになった。小麦粉もこの水車で挽いたが、ただ、米を搗くときのような音はたてなかった。」と記されています。

コラム 暮らしに根付いた歌いろいろ

《川仕事や川に関わる人がロズさんだ歌》

①いかだ師の歌『飯能出てから 千住へ五日 竿にまかせた この命』

《行事などの時に川辺で唄われる歌》

②虫送りの歌『よろずの虫を送るヨイ はやりの虫も送るヨイ 菜大根虫も送るヨイ 疫病神も送るヨイ』

《川や地名が歌詞に入った歌》

③秩父音頭『花の長瀬 あの岩畳 誰を待つやら おぼろ月』

アクセス

打木村治「天の園」の文学碑（唐子中央公園内）

交通：東武東上線「東松山駅」下車、東松山市内循環バス

「唐子コース」乗車、「坂口」下車、徒歩約

住所：東松山市大字下唐子1169-1

旭橋の河岸場跡の碑

交通：東武東上線「新河岸駅」下車、徒歩約10分

住所：埼玉県川越市下新河岸55

